

授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	八街市立八街中央中学校
-----	---------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 記述式問題の正答率の全国平均に対する相対値が、令和2年度から令和4年度にかけて67.7→69.7→80.9と上昇しているが、まだ値としては低い。
- 図形領域の正答率の相対値が81.9、関数領域の正答率の相対値が82.3と低い。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ICTを活用し授業の効率化を図ることで、基礎・基本の定着により多くの時間を使うことができるだろう。
- 基礎・基本の確実な定着とその活用を意識した授業改善を行うことで、記述式問題を含む応用問題に取り組む意欲を高めるとともに正答率の向上につながるだろう。

3. 具体的な実践

- 電子黒板、ロイロノート・スクール（以下、ロイロノート）、PowerPointなどを活用して板書を行った。
- 授業において、自分の考えを記述させる、周りに説明させる機会を多く設けた（全体、班、ペアなど）。また、定期テストにも記述式問題を必ず出題した。付随して、近年の入試の傾向として長文問題が出題されているので、そういった問題への苦手意識を減らすために、定期テストにおいて長文の問題を出題した。

4. 成果

- ICT（電子黒板、ロイロノート、PowerPoint）の活用により、板書を中心に時間を短縮することができ、その結果授業の復習や、既習事項の復習に時間を使うことができた。既習事項の復習では、テストの結果から計算と関数の分野において十分に定着できていなかったため、その分野を中心に復習を行った。計算は小テストを繰り返し行い、点数を上げることができた。
- 授業において自分の考えを記述させる問題を多く扱った結果、無回答の生徒の数が減った。まだ基礎・基本の定着が十分ではなく表現力も不足しているため、正答を記述できる生徒は多くないが、部分点を取れる生徒は大幅に増えた。
- リフレクションシートを活用することで、「記述問題の説明を書く」ことについてのハードルが下がった。何を書くかわからなかった生徒が、関連している内容を書こうとしている様子が増えた。

◆担当指導主事から

- ICTを活用し課題把握の支援をしていた。生徒はこれに伴い、課題に対する関心の高まり、解決に向けた意欲の向上が見られた。
解決に向けた見通しの場面では、生徒は「式・表・グラフを利用すればよいのでは」と意見提示ができていた。協働的な学習の場面では、それぞれの考えを共有し多面的な考えを提示することができていた。
課題としては、本時の内容ではグラフを利用することで違いが明確となり、説明のしやすさやわかりやすさにもつながる。しかし、生徒はグラフの利用が少なかったことから「相手がわかりやすい説明資料として、どのような資料を活用すればよいか」という点も考えさせることで目標に結び付けられると考える。